

本所消防団



本団

本所消防団



第1分団（両国・千歳地区）

本所消防団



第2分団（横網・亀沢・石原地区）

本所消防団



第3分団（太平・横川地区）

本所消防団



第4分団（向島地区）

本所消防団



第5分団（江東橋・錦糸地区）

本所消防団



第6分団（菊川・立川・緑地区）

本所消防団



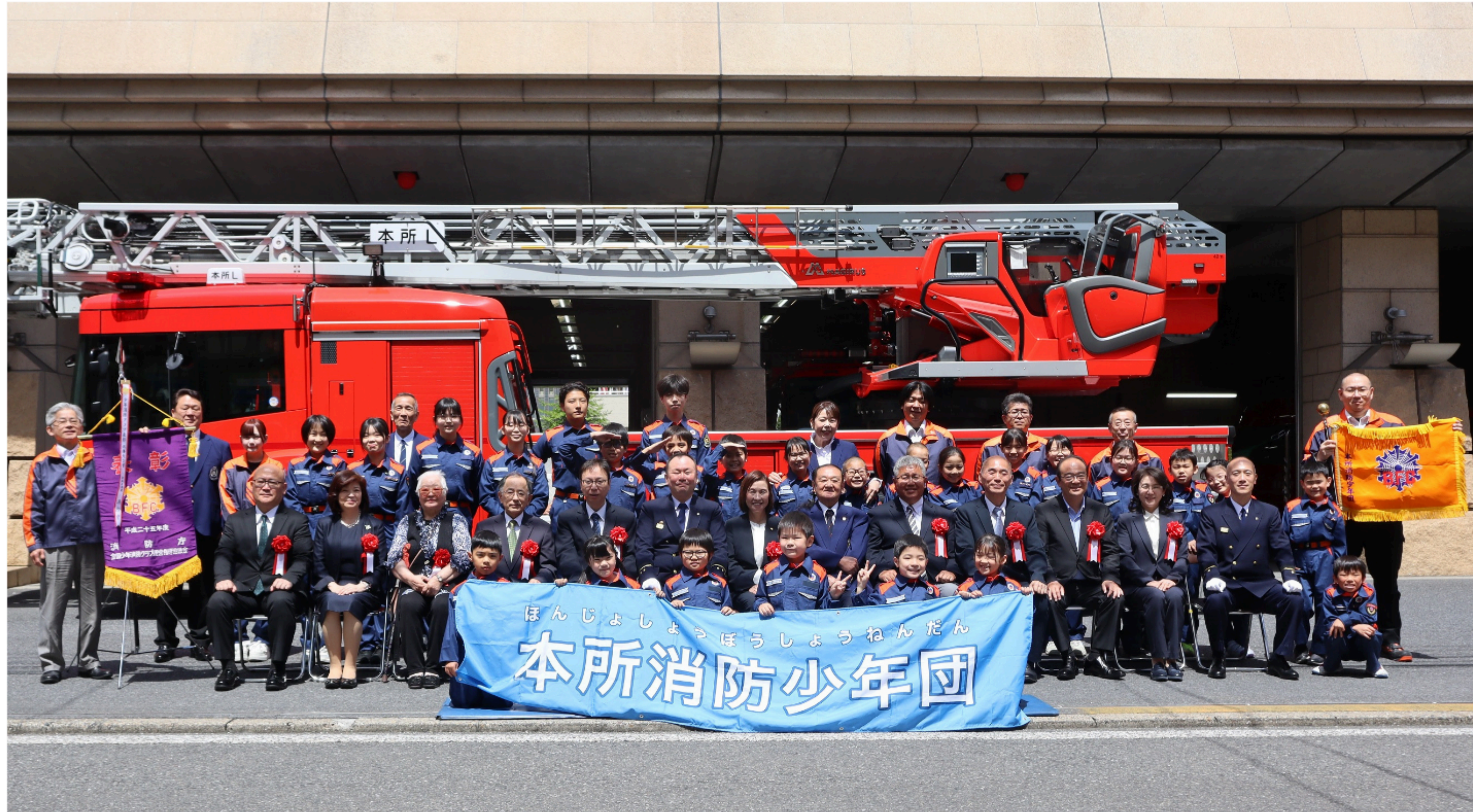
第7分団（本所・東駒形・吾妻橋地区）

本所消防団



第8分団（押上・向島地区）

本所消防少年団



第五章

次の百年に向けて

～若手職員の誓い～

小林 拓（平成31年3月25日修了配置・719期）



本所消防署が100周年という大きな節目を迎えたことは、先人たちが築き上げてきた歴史と功績の積み重ねであり、地域とともに歩んできた証です。この100周年という節目に立ち、本所消防署の一員としてその重みあるバトンを受け取ることに、大きな責任を感じています。

本所地域は、古くからの下町情緒を色濃く残しつつも、東京の新たなシンボルである東京スカイツリーの開業により、国内外から多くの人々が訪れる活気ある街へと大きく変貌しました。こうした地域の発展は、観光客の増加に伴い、これまで以上に高度で柔軟な消防活動や徹底した安全管理が求められるようになっていきます。また、救急の分野においては、高齢化の進展や生活様式の多様化などにより出動件数は増加の一途をたどり、救急活動の質の向上がこれまで以上に重要となっています。

次の100年は、首都直下地震への備えや気候変動に伴う自然災害の激甚化、さらには増大する救急需要への対応など、私たちが直面する課題は一層複雑化していきます。これらに立ち向かうためには、一人ひとりが使命感を持ち、主体的に行動できる力を養うとともに、風通しの良い職場環境を築き、組織としての総合力を高めていく必要があります。

地域とともに歩みながら、消防のさらなる進化を追求し、次の100年に向けて、地域の安全・安心を守る一員として尽力してきたいと思います。

門馬 正敏（令和元年9月26日修了配置・722期）



100年という歳月は、先人たちが築き上げてきた歴史、積み重ねてきた努力、そして幾多の困難を乗り越えてきた証です。この100年を振り返ると、関東大震災や戦災等で大きな被害を受けた地域である本所地区ですが、人々によるたゆまない努力により、今日の安全・安心につながっており、そのすべてが今、私たちの手の中にバトンとして託されています。

このバトンは、過去を振り返るだけでなく、次の世代へとつないでいく責任を担っています。私たちはそのバトンを次世代へつなぐ者として、過去の歴史や伝統を受け継ぎ、次の100年に向けて新たな形を作っていかなければなりません。これからの100年は、さらなる技術の進化や価値観の多様化が進み、まだ見ぬ未曾有の災害も予想されます。また、先人たちが築き上げてきた知識や技術では太刀打ちできない困難な問題も出てくるでしょう。

これまで培ってきた伝統や理念は大切にしつつ、新たな世代として変革していくことも重要です。新しい発想や柔軟な行動こそが、次の100年へつながるバトンとなるはずです。

これからの100年がさらに発展し、より豊かなものとなるために、私たち一人ひとりが日々の小さな行動を積み重ねる中で、互いに尊重しあい、そして支えあいながら前に進んでいく。その歩みこそが、新たな世代へバトンとしてつながっていくことでしょう。

渡部 智子（令和2年7月9日修了配置・725期）



100年という長い歴史の中で、多くの先輩方が築き上げてこられた信頼と実績の上に、今の私たちが働けていることに、感謝と誇りを感じています。

私は現在ポンプ車を運行し、火災があった際は水を送るポンプ車送水機関員として勤務しています。火災に備えて安全・迅速に水を送れるように日々鍛錬しています。

私はまだ経験の浅い若手職員ですが、日々の業務を通じて、先輩方の仕事に対する誠実さや地域・住民の方を大切にする姿勢が、長年受け継がれてきた当署の強みであることを実感しています。また、震災・戦災を経験している歴史あるまちであるとともに、新たなシンボルであるスカイツリーを守るバトンをこの先も繋いでいきたいと思っています。

社会や働き方が大きく変化する時代の中で、私たち若い世代には、新しい挑戦を恐れず、次の時代を切り拓いていく役割があると思います。そして、先輩方から受け継いだ伝統を大切にしながら、未来の100年に向けて新たな価値を創り続けていきたいと考えています。

100年の歴史に敬意を表するとともに、その先の未来を担う一員として、これからも成長し続けたいと思います。

編集後記

本所消防署は、大正15年の開署以来、100年という大きな節目を迎えました。この記念誌の編集にあたり、改めて先人たちが築き上げてきた歴史の重みと、地域の皆様に支えられてきた歩みの尊さを実感しました。

本所消防署は、関東大震災の直後、町の復興ままならない中で開署し、東京大空襲をはじめ、数々の災害や社会の変化を乗り越えながら、「地域の安全・安心を守る。」という役割を果たしてきました。その歴史は、消防職員だけではなく、消防団員、関係機関、そして地域住民の皆様との繋がりの中で作られた歴史です。

本誌では、100年の歩みを振り返るとともに、未来へ受け継ぐべき安全・安心への志を記録しました。編集作業を通じて、多くの皆様から貴重な資料や思い出、お言葉をいただき心より感謝申し上げます。

次の100年に向けて、私たちは先人たちの思いを胸に、変化する社会や新たな災害に対応しながら、地域とともに歩み続けます。そして、皆様から信頼される消防署であり続けるため、職員一同、より一層精神してまいります。

最後に、本誌の発刊にご協力いただいた全ての皆様に深くお礼申し上げますとともに、本所消防署のさらなる発展と、地域の皆様のご健勝・ご多幸を祈念し、編集後記といたします。

令和八年七月一日

東京消防庁本所消防署副署長 古木 康友